

【1】葉色が急激に低下中！！

現在、葉色が淡いほ場が多く見られます(図1)。
今後も高温・少雨が予報されていることから、
稲体活力を維持するため、以下の管理を徹底しま
しょう。

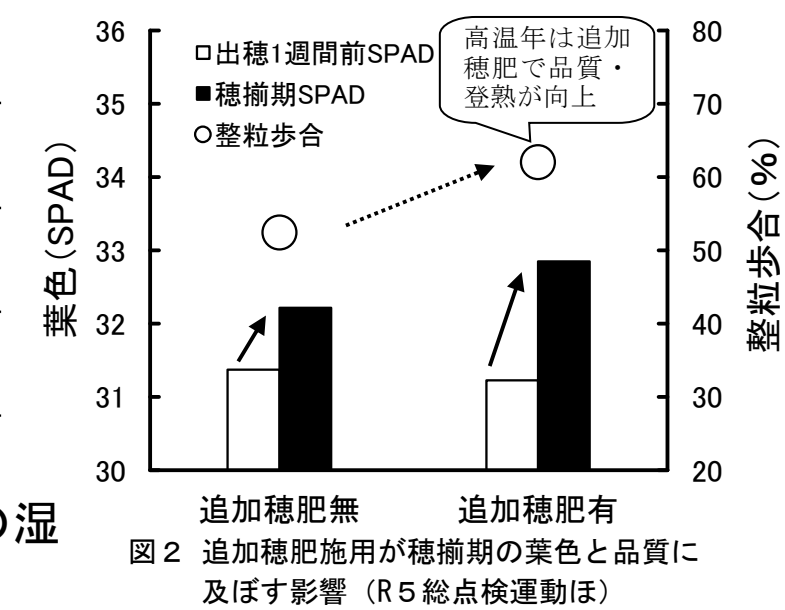
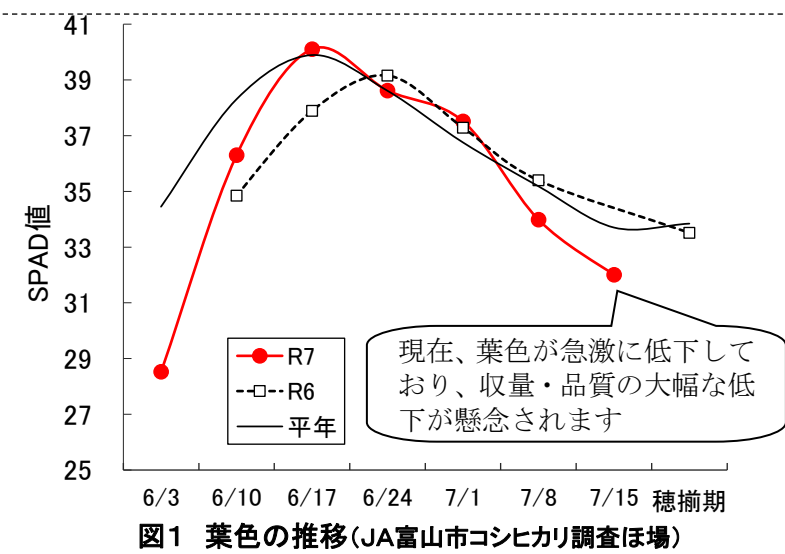
①積極的な追加穂肥の施用

出穂7日前に必ず葉色診断を行い、葉色が淡い
場合は直ちに追加穂肥を施用し、穂揃期の葉色を
4.2～4.5（砂壤土は4.5）に確実に誘導する。

表 「コシヒカリ」肥効調節型基肥栽培における追加穂肥の目安 (5/16 移植、7/11 幼穂形成期の場合)	
出穂7日前頃の葉色診断 (7月25日頃)	追加穂肥の施用 (7月25日～7月29日頃)
4.0以下(SPAD値32以下) ※砂壤土は4.2以下(SPAD値34以下)	出穂3～7日前に 窒素成分で0.7～1.0kg/10a
4.0より濃い(SPAD値32より高い) ※砂壤土は4.2より濃い(SPAD値34より高い)	無し

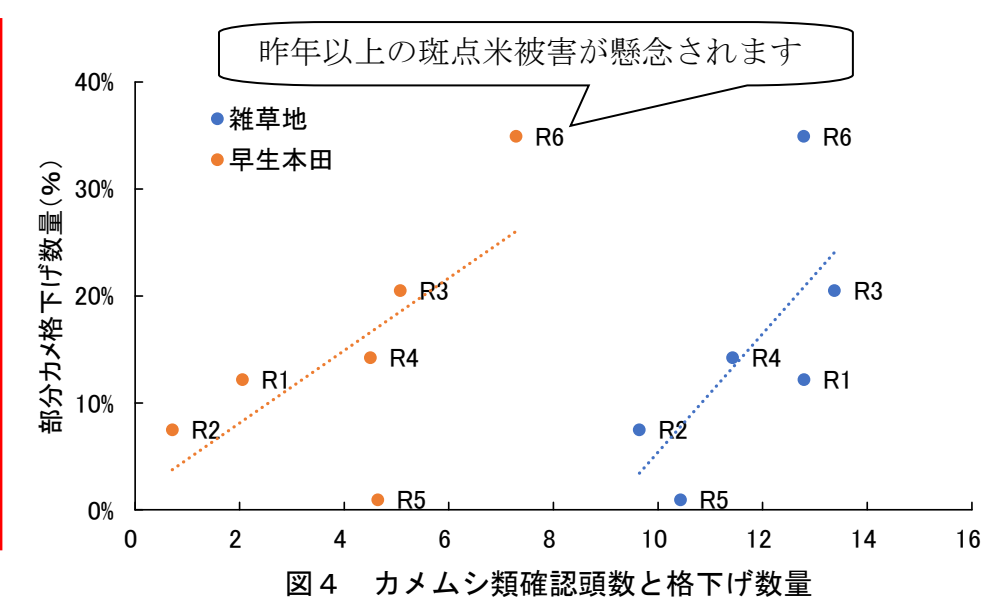
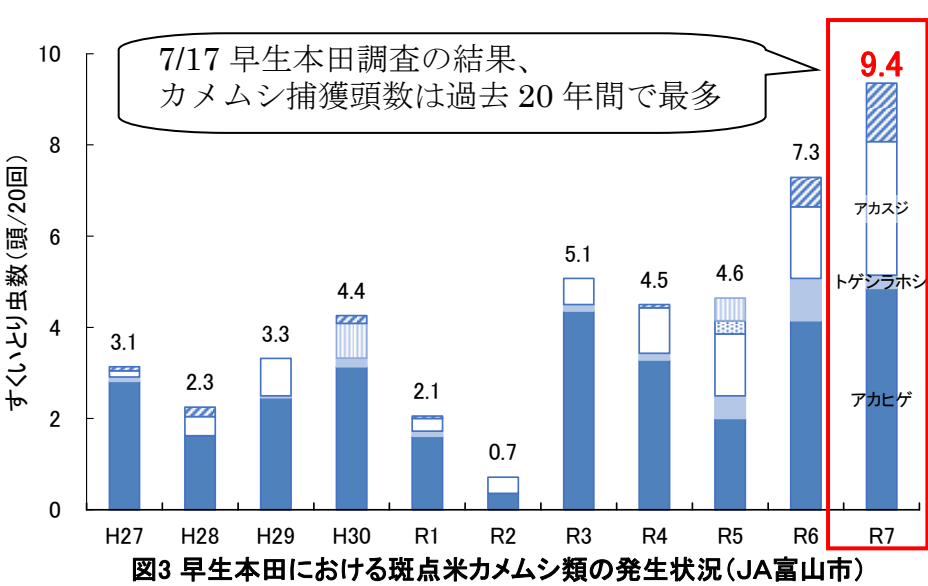
②水管理

- ・ 出穂期までは飽水管理（足あとに水が残る程度の湿潤状態を維持）を徹底し葉色低下を防ぐ。
- ・ 出穂後20日間は湛水状態を保ち、登熟期間の稲体活力を維持する。



【2】斑点米カメムシ類が過去最多！！

斑点米カメムシ類が多発しており(図3)、斑点米被害の増加が懸念されます(図4)。



①雑草対策

イネ科雑草の穂が出ないように草刈りを徹底しましょう。やむを得ず、出穂している雑草を草刈りする場合は、本田薬剤防除の直前に行いましょう。

②薬剤による防除

- ・ 穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を確実に実施しましょう。
- ・ 「てんたかく」で斑点米カメムシ類の多発地域や基本防除後も発生が見られる場合は3回目の追加防除を実施しましょう。

出穂が早まっているので適期を逃さないように注意！